

岩手県 大槌町

東京都市長会派遣

清水 一夫（消防本部）



担当業務の内容

東日本大震災が発生し、被災から57日目の5月6日からの6日間、岩手県大槌町に東京都市長会の派遣要員として、人的支援業務を行ってまいりました。

支援業務は、各避難所において臨時の窓口を設置し、所有敷地内の半壊以上の建物、他地域に流出した所有の建物、その他津波によって破損した乗用車、船舶の所有者に対して、行政が用意した重機等を活用し、取壊しや撤去についての意向を聴取することでした。



苦労したこと・工夫したこと

避難所生活では、震災において心身ともに疲労している中で、民有地に流出した瓦礫、車両、船舶の所有者に対して、過度のストレスや不安を与えぬよう慎重かつ丁寧な対応を心がけ、業務を遂行しました。

印象的なエピソード

東京都市長会として大槌町に派遣されましたが、管内地理の把握に対応できず意向調査の聴取に手間取った時がありました。東京都から来たことを知ると感謝をする方、不安がある中で明るく積極的に調査に協力してくれる方など、対応の不備に対して不満を露わにする人は無く、現実を見つめ、復興復旧へ向けた意識の強さと人間力のすばらしさを感じました。

所感

役場の職員からは、地震発生時の状況、避難方法、津波被害、庁舎の屋上で一昼夜を過ごした事、自身も被災したため避難所から出勤している事や、家族、親戚、同僚を亡くした事などを聞き、震災の恐ろしさと役場の職員も町民と同じ被災者であることを痛感しました。そんな中で膨大な業務を町民のために粛々とする姿は、今も脳裏に焼きついています。

自分自身の人的支援活動は6日間という短期間で終え、被災者に対し役に立った支援であったかは未だ悩むところもあります。今後は、復興復旧について必要とされる継続した支援を行うとともに、今回の経験を職員間で情報共有を図り、首都圏における大規模災害の発生に備えたいと思います。

